移動複合動詞にみる意味の結合

平　澤　洋　一

1　はじめに

動詞＋動詞で構成される複合動詞の前半要素を前項動詞，後半を後項動詞と呼ぶとき，（1）前項動詞と後項動詞はどのような条件のもとで意味結合するのか，（2）その際どのような意味要素が機能を喪失してしまうのか。本稿では，移動動詞の複合動詞化を分析対象にしてこのことを考察する。

移動動詞群1＝歩く，歩む，ふらつく，ぶらつく，うろつく，ほっつく

移動動詞群2＝飛ぶ，飛ばす

移動動詞群3＝渡る，渡す，越える，越す

移動動詞群4＝上がる，上る，浮く，浮かぶ，下がる，下る，降りる，落ちる，沈む，行く，来る，通る

これら24語を単純に組み合わせることによって多くの複合語が生成される。

（1）移動動詞群1が前項動詞＝歩いていく，歩いてくる……

（2）移動動詞群2が前項動詞＝飛び歩く，飛び渡る，飛び越える，飛び越す，飛び上がる，飛び降りる……

（3）移動動詞群3が前項動詞＝渡り歩く……

（4）移動動詞群4が前項動詞＝浮き上がる，浮かび上がる，行き渡る，通り越す……

機械的な組み合わせによって作られた次のような複合語が許容されないのはなぜであろうか。

（5）移動動詞群1が前項動詞＝歩き渡る*，歩き上がる*……

（6）移動動詞群2が前項動詞＝飛びふらつく*，飛び下る*，飛び浮く*……

（7）移動動詞群3が前項動詞＝渡りふらつく*……

（8）移動動詞群4が前項動詞＝上がり越える*，浮き下がる*……

上記（1）移動動詞群1が前項動詞のケースで「歩き降りる」「走り下る」は，方言によっては許容できるとする話者もいそうな気がするが，論者の内省では共通語では使えそうにない。「駆け下りる」は可能である。「駆ける」も「降りる」も意味特徴［速く］［移動する］をとることができるから，複合化しても意味上の整合性をもつからである。

2　移動動詞群の意味特徴

2-1　移動動詞群1

「歩く，歩む，ふらつく，ぶらつく，うろつく，ほっつく」の類は，類似する意味特徴をもつ。「登山隊が頂上に向かって急な山道を歩いていく」の「歩く」であれば，

［＋主体が］［＋起点から］［＋方向（［±上へ］［±前へ］）］［＋場所（［＋地上・接触面を］）］

表1　移動動詞群1の意味特徴

動詞群	A	B	B1	B2	C	D	E	F	F1	F2	F3	F4	F5
	主体	起点	こちら	相手	直接目的	間接目的	自動詞目的	方向	上へ	前へ	下へ	内から外へ	目標をはずれ
1歩く	2	1	1	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0
2歩む	2	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0
3ふらつく	2	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0
4ぶらつく	2	0	0	0	1	0	0	1	1	1	1	0	0
5うろつく	2	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0
6ほっつく	2	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0

動詞群	F6	F7	G	G1	G2	G3	G4	G5	G6	H	H1	H2	I
	相手と別方向	四方へ	場所	あちらこちら	空間・空	地上・接触面	障害物	抽象空間	体の中	手段	両足で	乗り物で	原因理由
1歩く	0	0	2	0	0	2	0	0	0	2	2	0	1
2歩む	0	0	2	0	0	2	0	1	0	2	2	0	1
3ふらつく	0	0	2	1	1	1	0	1	0	1	1	0	1
4ぶらつく	0	0	2	1	1	1	0	0	0	1	1	0	1
5うろつく	0	0	2	2	0	1	0	1	0	2	2	0	1
6ほっつく	0	0	2	2	0	2	0	0	0	2	2	0	1

動詞群	J	J1	J2	K	K1	K2	K3	K4	K5	K6	K7	K8	K9
	程度	とても	少し	状態	物に沿うよう	目的もなく	主体が伸びて	ゆれて	間を空けて	ゆっくり	速く	滑るように	勢いよく
1歩く	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	1
2歩む	1	1	1	1	1	0	0	0	0	2	0	0	1
3ふらつく	1	1	1	2	0	1	0	1	0	1	0	0	0
4ぶらつく	1	1	1	2	0	1	0	1	0	2	0	0	0
5うろつく	1	1	1	2	0	2	0	1	0	1	0	0	0
6ほっつく	1	1	1	2	0	2	0	0	0	1	0	0	0

動詞群	K10	K11	K12	K13	L	M	N	N1	N2	O	P	Q	R
	追いかける	消えて	不信感を与え	まごついて	経由点	到着点	文体制限	文語的	修辞的	移動する	他動化	受動化	複合語化
1歩く	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1
2歩む	0	0	0	0	0	0	2	1	1	2	0	0	0
3ふらつく	0	0	1	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0
4ぶらつく	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0
5うろつく	0	0	1	1	0	0	1	0	1	2	0	0	0
6ほっつく	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1

[＋手段（[＋両足で]）][±原因理由][±程度（[±とても][±少し][＋状態（[±物に沿うよう][±ゆっくり][±速く][±勢いよく]）][±到着点まで][＋移動する][±複合化[1]] のような意味特徴の束[2]を有する。このうちプラスは必須の意味特徴を，±は任意性のあるものを表す（非関与的な意味特徴は表示させてない）。

残る「歩む，ふらつく，ぶらつく，うろつく，ほっつく」を含めた6語の意味特徴をまとめると，表1のようになる（多変量解析するため，この表では＋を2で，±を1，非関与的なものを0で表示してある）。この表は，例えば「歩く」であれば，

（1）主体が足を動かしてゆっくり移動する，一歩一歩踏みしめて進む。

S1　急な山道を歩く。

S2　家から学校まで歩いて通学する。

（2）主体が徒歩であちこち移動する。

S3　朝から晩まで金策に歩く。

S4　酒場を飲み歩く。

S5　日本の各地を歩く。

S6　いつも電子辞書を持ち歩く。

（3）野球で打者またはランナーが次の塁に移動する。

S7　四球で一塁に歩く。

のごとき意味枠と用例から意味特徴群を抽出し，同様の手順で6語に関与するものをまとめた表である。

表1から，移動同動詞群1全体に関与的なのは，

［＋主体が］［±起点から］［±方向（［±上へ］［±前へ］［±下へ］［±内から外へ］）］［＋場所（［±あちらこちら］［±空間を］［±地上・接触面を］［±抽象空間を］）］［±手段（［±両足で］）］［±原因理由］［±程度（［±とても］［±少し］）］［±状態（［±物に沿うように］［±目的もなく］［±ゆれて］［±ゆっくり］［±勢いよく］［±不信感を与えて］）］［±到着点まで］［±文体制限あり（［±文語的］［±修辞的］）］［＋移動する］［±他動化］［±複合語化］

のような意味特徴の連鎖であることが読み取れる。

2－2　移動動詞群2

「飛ぶ」の意味特徴は，［＋主体が］［±起点から］［＋方向（［±上へ］［±前へ］［±下へ］［±内から外へ］［±四方へ］）］［＋場所（［±あちらこちら］［±空間・空を］［±地上・接触面を］［±障害物のある］［±抽象空間を］）］［±手段（［±両足で］［±乗り物で］）］［±原因理由］［±程度（［±とても］［±少し］）］［±状態（［±物に沿うように］［±ゆれて］［±間を空けて］［±ゆっくり］［±速く］［±勢いよく］［±消えて］）］［±到着点まで］［±文体制限あり（［±文語的］［±修辞的］）］［＋移動する］［±複合語化］の連鎖となる。

「飛ばす」は「飛ぶ」の意味特徴に［＋直接目的］［±間接目的］［＋他動化］を加え［±障害物のある］［±両足で］を引いた束となる。

2－3　移動動詞群3

「渡る，渡す，越える，越す」の意味特徴は，次のようなもの(3)である。

渡る：［＋主体が］［±起点から］［＋方向（（［±上へ］［±前へ］［±下へ］［±内から外へ］［±四方へ］［＋向こう側へ］）］［＋場所（［±あちらこちら］［±空間を］［±地上・接触面を］［±障害物のある］［±抽象空間を］）］［±手段（［±両足で］［±乗り物で］）］［±程度（［±とても］［±少し］）］［＋状態（［±物に沿うように］［±ゆっくり］［＋速く］［±勢いよく］［±おおむね水平に］）］［＋到着点まで（［±目標に並ぶ所まで］）］［＋移動する（［±至る］［±及ぶ］）］

渡す：[主体が] [±起点から] [＋直接目的] [±間接目的] [＋方向 ([±上へ] [±前へ] [±下へ] [±内から外へ] [＋向こう側へ])] [＋場所 ([±空間を] [±地上・接触面を] [±障害物のある] [±抽象空間を])] [±手段 ([±乗り物で])] [±程度 ([±とても] [±少し])] [＋状態 ([±物に沿うように] [±ゆっくり] [＋速く] [±勢いよく] [±おおむね水平に])] [±文体制限あり ([±文語的] [±修辞的])] [＋移動する] [＋他動化] [±複合語化]

越す：[＋主体が] [±起点から] [＋方向 (([±上へ] [±前へ] [±下へ] [＋向こう側へ])] [＋場所 ([±あちらこちら] [±空間を] [±地上・接触面を] [±障害物のある] [±抽象空間を] [±時を] [±限界や難所を])] [±手段 ([±両足で] [±乗り物で])] [±程度 ([±とても] [±少し])] [＋状態 ([±物に沿うように] [±ゆっくり] [＋速く] [±勢いよく])] [±前や上を通過して] [±限界や難所を切り抜け] [±基準や限界を上回って] [±勝って・秀でて])] [±到着点まで] [±文体制限あり ([±文語的] [±修辞的])] [＋移動する] [±他動化] [±複合語化]

越（超）える：[＋主体が] [±起点から] [＋方向 (([±上へ] [±前へ] [±下へ] [＋向こう側へ])] [＋場所 ([±あちらこちら] [±空間を] [±地上・接触面を] [±障害物のある] [±抽象空間を] [±時を] [±限界や難所を] [±起点上を] [±境界上を])] [±手段 ([±両足で] [±乗り物で])] [±程度 ([±とても] [±少し])] [＋状態 ([±物に沿うように] [±ゆっくり] [＋速く] [±勢いよく] [±前や上を通過して] [±限界や難所を切り抜け] [±基準や限界を上回って] [±勝って・秀でて])] [±文体制限あり ([±文語的] [±修辞的])] [±到着点まで] [＋移動する] [±複合語化]

「渡る」「渡す」には [±おおむね水平に] [±到着点まで] [＋移動する] という連鎖が必要であるが，「越す」「越える」では非関与的となるほか [＋状態] としての [±前や上を通過して] [±限界や難所を切り抜け] [±基準や限界を上回って] [±勝って・秀でて] が任意選択される。これにより「難所を越す」「限界を越えて」のような用法が可能となる。また，「越える」は「越す」と異なり，「境界線を越える」「国境を越える」のような用法があることから，[±起点上を] [±境界上を] [＋移動する] という連鎖のあることが分かる。

2－4　移動動詞群4の意味特徴

移動動詞群4は「上がる，上る，浮く，浮かぶ，下がる，下る，降りる，落ちる，沈む，行く，来る，通る」の12語であるが，これらは意味の類似した用例の見られる興味深い語群である。若干の用例を挙げる（許容されない語には右肩に*印を付した）。

（1）上がる／上る

S1　女が階段をゆっくり上がる／上る。

S2　小学生が歩いて富士山に上がる*／上る。

S3　船が2時間かけて川を上がる*／上る。

S4　風船が空に舞い上がった／上った*。

表2　移動動詞群4の意味特徴

動詞群	A	B	B1	B2	C	D	E	F	F1	F2	F3	F4	F5
	主体	起点	こちら	相手	直接目的	間接目的	自動詞目的	方向	上へ	前へ	下へ	内から外へ	目標をはずれ
1上がる	2	1	1	0	0	0	0	2	2	0	0	1	0
2上る	2	1	1	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0
3浮く	2	1	1	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0
4浮かぶ	2	1	1	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0
5下がる	2	1	1	0	0	0	0	2	0	1	2	0	0
6下る	2	1	1	0	0	0	0	2	0	1	2	0	0
7降りる	2	1	1	0	0	0	0	2	0	1	2	0	0
8落ちる	2	1	1	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0
9沈む	2	1	1	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0
10行く	2	1	2	0	0	0	1	1	1	2	1	0	0
11来る	2	1	0	2	0	0	0	1	1	2	1	0	0
12通る	2	1	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0

動詞群	F6	F7	G	G1	G2	G3	G4	G5	G6	H	H1	H2	I
	相手と別方向へ	四方へ	場所	あちらこちら	空間・空	地上・接触面	障害物	抽象空間	体の中	手段	両足で	乗り物で	原因理由
1上がる	0	0	2	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2上る	0	0	2	0	1	1	1	1	0	1	1	1	1
3浮く	0	0	2	0	1	0	0	1	1	1	0	1	1
4浮かぶ	0	0	2	0	1	0	0	1	1	1	0	1	1
5下がる	0	0	2	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1
6下る	0	0	2	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1
7降りる	0	0	2	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1
8落ちる	0	0	2	0	1	1	0	1	1	1	0	1	1
9沈む	0	0	2	0	1	0	0	1	1	1	0	1	1
10行く	0	0	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
11来る	0	0	2	0	1	1	1	1	0	1	1	1	1
12通る	0	0	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

動詞群	J	J1	J2	K	K1	K2	K3	K4	K5	K6	K7	K8	K9
	程度	とても	少し	状態	物に沿うよう	目的もなく	主体が伸びて	ゆれて	間を空けて	ゆっくり	速く	滑るように	勢いよく
1上がる	1	1	1	2	1	0	0	1	0	1	1	1	1
2上る	1	1	1	2	1	0	0	1	0	1	1	1	1
3浮く	1	1	1	2	0	0	0	1	0	1	1	1	1
4浮かぶ	1	1	1	2	0	0	0	1	0	1	1	1	1
5下がる	1	1	1	2	1	0	0	1	0	1	1	1	1
6下る	1	1	1	2	1	0	0	1	0	1	1	1	1
7降りる	1	1	1	2	1	0	0	1	0	1	1	1	1
8落ちる	1	1	1	2	1	0	0	1	0	1	1	1	1
9沈む	1	1	1	2	0	0	0	1	0	1	1	1	1
10行く	1	1	1	2	1	0	0	1	0	1	1	1	1
11来る	1	1	1	2	1	0	0	1	0	1	1	1	1
12通る	1	1	1	2	1	0	0	1	0	1	1	1	1

動詞群	K10	K11	K12	K13	L	M	N	N1	N2	O	P	Q	R
	追いかける	消えて	不信感を与え	まごついて	経由点	到着点	文体制限	文語的	修辞的	移動する	他動化	受動化	複合語化
1上がる	0	0	0	0	0	1	1	0	1	2	0	0	1
2上る	0	0	0	0	0	1	1	0	1	2	0	0	1
3浮く	0	0	0	0	0	1	1	0	1	2	0	0	1
4浮かぶ	0	0	0	0	0	1	1	0	1	2	0	0	1
5下がる	0	0	0	0	0	1	1	0	1	2	0	0	1
6下る	0	0	0	0	0	1	1	0	1	2	0	0	1
7降りる	0	0	0	0	0	1	1	0	1	2	0	0	1
8落ちる	0	2	0	0	0	1	1	0	1	2	0	0	1
9沈む	0	2	0	0	0	1	1	0	1	2	0	0	1
10行く	0	0	0	0	0	1	1	0	1	2	0	0	1
11来る	0	0	0	0	0	1	1	0	1	2	0	0	1
12通る	0	0	0	0	2	1	1	0	1	2	0	0	1

（2）　降りる／下がる／下る／落ちる

S5　2階から堂々と降りてくる／下がってくる*／下ってくる*／落ちてくる*。

S6　半日かけて船が川を降りる*／下がる*／下る／落ちる*。

S7　右肩が降りている*／下がっている／下っている*／落ちている*。

（3）浮かぶ／浮く／沈む

S8　油が水面に浮かんでいる／浮いている／沈んでいる*。

S9　名案が浮かぶ／浮く*／沈む*。

S10　女が物思いに浮かぶ*／浮く*／沈む。

（4）行く／来る／通る

S11　道路の向こう側に行く／来る*／通る*。

表3　動詞間の非類似距離

No.	サンプル名	距離
1	3浮く－4浮かぶ	0.0000
2	6下る－7降りる	0.0000
3	5下がる－6下る	1.3333
4	8落ちる－9沈む	1.4142
5	1上がる－2上る	1.7321
6	10行く－12通る	3.0000
7	1上がる－3浮く	3.8195
8	10行く－11来る	4.0764
9	5下がる－8落ちる	5.2459
10	5下がる－10行く	6.6040
11	1上がる－5下がる	8.5327

移動動詞群4の12語は，①「上がる」「上る」「浮く」「浮かぶ」，②「下がる」「下る」「降りる」「落ちる」「沈む」，③「行く」「来る」「通る」の3群に分けられる。これは，前出の表2の意味特徴をもとにクラスター分析(原データの距離計算はユークリッド平方距離，合併後の距離計算にウォード法を適用）した場合にも①～③のクラスターに分けられる。その場合の主な動詞間の非類似距離は，表3のとおりである（デンドログラムの表示は省く)。①は［＋方向］［＋上へ］の制限を受けるもの，②は［＋方向］［＋下へ］の制限を受けるもの，③はそれらから解放されている動詞群である。

移動動詞群4に関与している意味特徴は，［＋主体が］［±起点から］［＋方向（([±上へ］［±前へ］［±下へ])］［＋場所（[±あちらこちら］［±空間を］［±地上・接触面を］［±障害物のある］［±抽象空間を］［±時を］［±限界や難所を］)］［±手段（[±両足で］［±乗り物で])］［±程度（[±とても］［±少し])］［＋状態（[±物に沿うように］［±ゆっくり］［＋速く］［±勢いよく］［±滑るように］［±勢いよく］［±消えて])］［±到着点まで］［±文体制限あり（[±文語的］［±修辞的])］［＋移動する］［±複合語化］である。これを動詞ごとにまとめたのが表2である。

3　複合化と意味特徴

複合動詞の生成には前項動詞と後項動詞の意味特徴の整合性が強く関わってくる。移動動詞群1「歩く，歩む，ふらつく，ぶらつく，うろつく，ほっつくが」が前項動詞となることによって「歩いて行く」「上がって行く」の類が形成されるが，これは後項動詞の「行

く」の［方向］性が特定の方向に限定されない動詞だからである。

移動動詞群２が前項となる「飛び歩く，飛び渡る，飛び越える，飛び越す，飛び上がる，飛び降りる」の類は，前項「飛ぶ」の意味特徴［＋場所］［＋空間・空］や［＋方向］［±上へ］［±下へ］などと，それに対応する後項動詞の意味特徴に整合性があるからである。移動動詞群３が前項となる「渡り歩く」，移動動詞群４が前項となる「浮き上がる，浮かび上がる，行き渡る，通り越す」なども同様である。

したがって，機械的な組み合わせによって作られた前出のような複合語が許容されないのは，意味特徴の対応・結合に矛盾を生じるからである。例えば，移動動詞群１が前項の「歩き上がる*」では［方向］性として［＋前へ］が重視される「歩く」と［＋上へ］が必須の「上がる」では意味的な結合ができないので，複合語は生成されない。

最後に，接続助詞を介した複合化について。これまで見てきた動詞を単純に組み合わせ接続助詞「て」を介することで生成される表現形式もある。

（１）移動動詞群１が前項動詞＝歩いて上る，歩いて降りる，歩いて行く，歩いて来る，歩いて通る

（２）移動動詞群２が前項動詞＝飛んで渡る，飛んで越える，飛んで降りる，飛んで行く，飛んでくる……

（３）移動動詞群３が前項動詞＝渡って行く，渡って来る，越えて行く……

（４）移動動詞４が前項動詞＝行って渡る，来て渡る……

「て」を介する形式は接続助詞だけとは限らないようだ。［過去］や［完了］を表す「て」も考慮に入れる必要があろう。「て」を介して生成される表現形式の場合と複合動詞の場合とで許容される範囲に差異があるのは，「て」の場合には「川を歩いて渡る」（［＋手段］），「木の葉が飛んで行った」（［＋状態］）のように，構文レベルの格成分の位置に存在して主文の述語と意味的に関係していくケースも見られ，事象は複雑である。本格的な検討は今後の課題としたい。

本稿での議論から次の結論を得た。このことの一般性を検証するため，引き続き複合化の問題を調査していきたい。

１　類義語は，類似的な意味特徴の束を有する。

２　意味特徴の整合性を失わないかぎり，前項動詞と後項動詞は文法的に結合できる。

３　動詞の結合においては，意味レベルの意味特徴と文法レベルの構文要素とが密接な関係をもつ。

注

（１）複合化とは「歩き回る」「歩き通す」のように複合動詞を生成できる意味特徴を示す。「歩いて回る」「歩いてわたる」の類は，接続助詞が挿入されるという文法形態だけでなく，前項動詞と後項動詞それぞれの意味特徴の結合条件において複合動詞

とは差があるので，本稿では「複合形式」と呼ぶことにする。

（2）歩く語彙6語の意味特徴については，李顕清・平澤洋一「辞書的意味と意味的距離」（2005年11月の大韓日語日文学会秋季大会での発表予稿集）に詳述した。

（3）「移動動詞群の意味領域と体系結合（1）」（『城西大学語学教育センター年報』創刊号，1－11頁，城西大学語学教育センター，2005年3月）による。

参考文献

1「日本語教育における体系的教授法」（李顕清・平澤洋一『連合研究会論文集　情報文化学研究』第1号，35－40頁，情報文化学会），2003年12月